

【専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	初級Webプログラマー短期養成カリキュラムの研究開発		
学校法人名	学校法人 朝日学園		
学校名	明生情報ビジネス専門学校		
代表者	岡田 充	担当者・連絡先	櫛淵 喜弘(047-346-7475)

< 事業の概要 >

(1) 概要

若者の雇用促進に向けて、これまでも学校・行政等で、多くの IT 関連の講座が開講されております。しかし、これらの講義は知識の向上には役立っているものの、若者の雇用環境の改善や就職意欲の促進につながっていないため、企業との連携による就職支援や就職に対する意欲・能力開発のためのカリキュラム(就職支援カリキュラム)が必要であると思われます。

そこで、IT 業界で需要の高い JAVA ( JSP ) の初級学習をするとともに、若者の職業技術だけでなく職業観をも育成するための効果的な学習カリキュラムと就職支援カリキュラム編成について、研究開発をおこないました。

(2) 事業目的

近年、若年層の失業率が高いだけでなく、就職後 3 年以内の離職率も 3 割と早期離職傾向も見られるところがあります。このため、働くための意義や職業に希望をもてない若者が増えている傾向もあります。

こうした背景には、学校での就職支援や講義によって育成される人材と企業の求めている人材との差が大きいと思われます。

また、IT 企業各社の人材不足は深刻化しており、概略や基礎を習得した程度の人材ではなく、しっかりとした実務スキルを確実に身に付けた人材の育成が急務となっております。これらを改善するため、単に技術スキルを取得する為だけでなく、就職に対する意識付けや就職支援をカリキュラムに取り入れることにより、就職率や、就職後の定着率を高いものとするカリキュラムの開発を行いました。

(1) 研究開発内容について

IT カリキュラムの開発

本校の教員と、IT 関連企業からの代表メンバーにより IT カリキュラム分科会を運営。短期間で効率よく初級 Web プログラマーを育成する為のカリキュラム及びシラバスと教材の作成を行いました。2 回の講座を設けることにより、初回講座における問題点を洗い出し、シラバスと教材のブラッシュアップに役立て、2 回目の講座において変更点の改善実績を確認することができました。

就職支援カリキュラムの開発

参加校の教員と、就職支援企業からの代表メンバーにより就職支援カリキュラム分科会を運営。フリーターを対象とした場合に一番の問題点となる就職意識の改善を目指し、カリキュラムと教材の研究開発を行いました。

(2) 研究開発方法

研究開発手法には、2回の実証講座におけるアンケート結果をフィードバックしながらシラバスと教材のブラッシュアップを行うことを基本に運営されました。

まず初めに、初級 Web プログラマーとして、企業の現場で求められるスキルを策定し、最終的に到達する目標レベルとそれを満たす要件の定義を各カリキュラム委員会にて設定いたしました。その後、180 時間という短期間において効率よく就職支援プログラムと技術習得プログラムの時間配分のすりあわせを経て、フリーターの初心者を対象としたカリキュラム編成と教材作成を行いました。

< 基本的な研究の流れ >



- …日々の授業において講師による意見
- …科目終了後のスキル定着度を受講者にアンケート
- …講座終了後の就職活動のアンケート

(3) 成果物について

2回の実証講座を経て、講師、受講者からの評価、問題・課題の抽出と改善を行い次のカリキュラムとシラバス、および教材の完成にいたしました。

- ・カリキュラム（各科目の時間配分と実施順序、要件定義と内容）
- ・科目単位のシラバス
- ・テキスト教材及び実習課題

## < 成 果 >

### (1) 実証講座の成果について

#### アンケート集計結果

##### < ITカリキュラム講座に関する評価 >

ITカリキュラム講座に関する授業アンケートでは、第1回講座、第2回講座ともに有効であるという一定の評価を受けました。特にWebプログラマーの具体的なイメージを理解できたという声が非常に多数を占めました。

就職状況調査で注目すべきは、第2回講座受講生は就職内定を10名中4名果たし、その内IT関連企業が2名いたことです。また、アルバイト継続中である2名の内1名はIT関連のアルバイトをしております。

一般的にいえることですが、IT関連企業へ就職を果たした受講生にとっては、今回のITカリキュラム講座は役立ったといえるが、それ以外の職種に就職した受講生にとっては講座の有効性評価は当然ながら高くはありません。現在も求職活動中(アルバイト含む)の受講生にとってITカリキュラム講座の有効性は、今後の求職活動や就業職種によって大きく変わると考えられます。

##### < 就職支援カリキュラム講座に関する評価 >

就職支援に関しては、あらゆる面で第1回講座よりも第2回講座の方が上回っております。適切な受講者の分類ができ、効果的な講座を実施できたことにより、第2回講座の方が受講者の就職結果についても、有効な成果をあげました。

特に授業アンケートにおいては、職務経歴書の書き方とキャリアカウンセリングなどの個別指導を高く評価する声が多くありました。

#### カリキュラムの総評

##### < ITカリキュラム >

2回の実証講座を行い、受講生と講師の意見を真摯に受け止めることにより、机上で作成されたカリキュラムを、より実効性の高いものへと成長させることができました。

今回の研究でのカリキュラム変更の方向性は「難易度の引き下げ」、「学習項目の定着度向上」です。この2点は、学習意欲の継続とIT分野への参加モチベーションを維持することに対し重要なポイントであると考えられます。

本研究の対象者はフリーターであり、スキルの習得も重要であります。自己啓発意欲の向上と持続こそが重要なテーマであると認識しております。特に定着度向上は、モチベーションを維持するために必要であり、課題完成の達成感を得ることにより、技術的スキル習得だけでなく自立的な就職観を養成する上でも相関関係があることを現場講師が感じておりました。

本研究はプログラムスキルを完結するカリキュラムを作成することを主目的とはしておりません。フリーターがIT分野に新規参加するに当たり、新規参加による心理的な不安を軽減することが重要なポイントであると認識しております。短期育成カリキュラムは時間的な制約がある以上、受講者が習得できるスキルにはおのずと限りがあります。そのため就職後にOJTによるスキルの完結を前提とすることにより、モチベーションの向上と継続という教育的な配慮から見たカリキュラム作成が有効であることが今回の研究成果としてあげられます。

### <就職支援カリキュラム>

第一回講座ではニート、フリーター、求職者の受講生が混在しており、こうしたメンバー構成では、講座を進める上で意識差が大きいと感じたので、初日から個別のキャリアカウンセリングを行い、受講生の現在の意識、活動の状況を個別に把握することからスタートしました。留意した点は、「個々人の社会観、職業観」についてありのままを受容することでした。

特に10代のニートに分類される受講生2名については、以下の分析に至りました。

#### [ニートの現状]

- ・大人社会への踏み込みに恐怖感を持っている。
- ・社会人として生活し大人になっていく上での教育・しつけなどの欠如

#### [ニートに対する就職支援]

- ・「生活すること働くこと」の初歩的な問題からアプローチを開始する。
- ・就職支援以前の社会観・職業観の育成を重点に置いた課題の必要性
- ・家庭教育における親子間の教育・しつけ 保護者に対するカウンセリングの必要性

第二回講座では、募集段階での配慮もあり、フリーターよりも求職者の受講生が多く積極的なプログラムへの参加が見られました。終了後も講習生が自主的にネット上に掲示板を貼り情報交換を行っており、また、講師ともメールを交換しながら積極的な活動を展開いたしました。大きな成果を期待できる支援状況であったと思われます。

フリーターに対する就職支援としては、ライフプランや会社組織の理解に重点を置き、まず適切な職業人意識を習得する課題を必要とします。これを前提とした上で、社会常識やマナー、就職活動へのアプローチを開始する手順が好ましいと考えられます。また、求職者に対する就職支援では、積極的な姿勢をすでに持っていることから、非常に実践的な就職支援を行うことが可能です。

カリキュラムを実施していく上で、受講者をニート・フリーター・求職者の3パターンに適切に分類した上で、実情に沿ったカリキュラム。時間配分を遂行していくことが成果につながる重要ファクターであると考察できます。

## (2) 事業を通しての課題とそれについて考察

### はじめに

今回の研究事業の目的を簡単に要約しますと、「フリーターをはじめとする職業観が確立されていない若年層の未就職者が、本研究を元に実施される講座を受講することにより、初級IT技術者としての基礎知識を身に付け、適切な職業人意識を持った人材として、IT関連企業での就業が可能になるカリキュラムを作成する。」となります。

ただし、今回の研究には「短期間で養成する」「フリーター対象である」という目的が含まれており、具体的には180時間という制約を設け、この限られた

時間の中で必要な内容を吟味し、「初級 IT 技術者育成」「自立的就職活動の実践」という2つの要件を満たすための学習項目の選択と絞込みがなされました。

#### カリキュラム作成のあり方

既存の技術習得カリキュラムはスキル習得をカリキュラム内で完結することを目標としており、設定時間内にスキル完結に必要な学習項目を網羅することが必須となっております。また、受講者のモチベーション維持は受講者の責任であり、カリキュラム作成時にはあまり考慮されておられません。

今回のカリキュラム作成が、既存の技術習得カリキュラム作成と大きく違うのは対象者をフリーターとする点にあります。フリーターには大きく「夢追求型」「モラトリアム型」「やむを得ず型」に分類されますが、これ以外にもニートの代表される「無気力型」の存在があります。今回の研究の対象になるのはこの中でも「モラトリアム型」「やむを得ず型」が中心となるのですが、その対象者の多くは「無気力型」の要素も持っております。この部分がカリキュラムの実効性を左右する大きな因子となっております。

本研究に対し社会が要求する「フリーターの就職支援」を実現する上で、カリキュラム作成者に要求される学習方法の検討能力と構成能力に、技術知識だけではない受講者心理の視点が重要になります。単に技術スキルの学習のみを考えるだけではなく、受講者の心理状態にも配慮したシラバス、教材の作成が、本研究成果の実効性部分に大きくかわることとなりました。カリキュラム成長のキーポイントは机上での検討のほかに実施現場からのフィードバックに重点を置き、「実行」、「検証」、「変更」をスパイラルに繰り返す成長モデルが必須と思われます。

#### 明確になった問題点

##### < ITカリキュラム >

- ・ 短期間での講座実施を想定した場合、企業サイドが求めるスキルと、フリーターの学習レベルに合わせた習得スキルでは差があることが確認できました。
- ・ フリーターは通常、ある程度定期的なアルバイトを行うことにより生活収入を得ております。このアルバイトを継続しながらの技術スキルの習得にあわせたカリキュラム構成が必要です。具体的には1日の受講時間数を2～4時間で可変的に対応できるシラバスの作成が必要。
- ・ 就職支援カリキュラムとの連携を深めることが必要。
- ・ 実証講座にてカリキュラム変更に伴いどのように実績が上がったか、また就職意欲にどのような相関関係があるかを示すデータの採取が必要。
- ・ フリーターのタイプ別に合わせたシラバスのバリエーションが必要。

##### < 就職支援カリキュラム >

###### 職業意識によるフリーターの分類

1. ニートに代表される無気力型
2. 就職意識を持たないフリーター
3. 求職者

- ・ 上記3パターンの就職支援に対する意識差は大きく、同一のカリキュラムで

就職支援を行うには大きな弊害があります。特にニートに分類される若者とフリーター・求職者を同一のカリキュラムにて就職支援の成果をあげることは極めて困難です。

- ・今回実施した就職支援カリキュラムは、フリーター・求職者にとって一定の成果を期待できる内容であります。しかし、ニートに関しては就職支援以前の根深い問題が浮き彫りとなりました。
- ・共通分野と個別分野に分け、共通分野を集中一括で実施し、個別分野をキャリアカウンセリングなどの個別指導に割り当てるなどの配慮が必要となります。この個別指導にいかにより多くの時間を割り当てることができるかが課題となります。

#### 今後のカリキュラムについて

上記にあげられた問題点を次の研究材料として、企業と社会からの要請にこたえられるフリーター対象のIT技術者養成カリキュラムを作成するとともに、フリーターに対する学習カリキュラム作成のあり方に重点を置いた実証実験を行い、その研究成果を技術養成カリキュラムに組み込むことが、より実効性を伴うカリキュラムの開発につながると考えます。